しごと最・前・線

開発局と地域を結ぶ
主役はまさに“ひと”
地域の人々と一緒に考え、行動する
その最前線に立つ姿を紹介します

北海道農業の振興に貢献を

北海道開発局農業水産部農業調査課
農用地第２係主任　**栃本　味千代**

私が今年の４月から所属している農業調査課では、農業農村整備事業の調査計画に関する業務を行っています。私は、その中で「農地再編整備事業」の調査計画を担当しています。農地再編整備事業とは、主に区画整理によりほ場の基盤整備を行うとともに、担い手農家への農地の利用集積を進め、生産性の向上と優良農地の確保により農業の振興を図ることを目的とする事業です。

今回は、私がこの３月まで小樽開発建設部農業開発課で担当していた農地再編整備事業のニセコ地区着工に向けた調査計画についてお話しします。

ニセコ地区の調査は、平成十九年度から３年間、地域の課題や状況を的確に把握して農業基盤の整備方向を概定するための「地域整備方向検討調査」を行い、その後、平成二十二年度からの４年間、技術的・経済的な妥当性を検証して事業計画案を策定するための「地区調査」が行われました。私は地区調査初年目から最終年までの４年間、一担当として関わらせていただきました。

ニセコ地区の受益農地は町全域にわたります。事業計画の策定に当たっては、農家が何度も集まり、自分の農地だけでなく、地域農業の将来の姿についても真剣な議論がなされました。その中で、自分は既に離農しているが若い世代のために条件の良い農地を残してあげたい、一体的に整備をすることで地域全体が良くなるなら協力する、といった方も徐々に増えていったことが、とても印象に残っています。

農家との真剣な議論の様子（上）と先進地視察で興味深く耳を傾ける農家（右）

また、農家に整備後の具体的イメージをもってもらうために、道内の先進地の視察を毎年行っていましたが、調査３～４年目には二十代から三十代の若い後継者の参加も増え、事業に対する期待が高まっていることを実感しました。

町の関係者も、町のホームページや広報誌に事業のコーナーを設けて常に最新の情報を発信する等、事業の普及に積極的に取り組んでいました。

４年間の調査期間中には大変なこともありましたが、地元の方々の熱意があったからこそ、ここまで辿り着けたのだと思います。

ニセコ地区は現在、事業着手に向けた手続き中であり、平成二十七年度には工事が開始される予定です。この事業によって、地域の農業は大きく変わります。まさにニセコ町の未来のための事業であり、その一端に携われたことに感謝しています。

また、現在担当している調査地区も、ニセコ地区のように基盤整備を必要としている地区ばかりです。これからも、北海道農業の振興に少しでも役立てるよう、頑張っていきたいと思っています。

はみだしクイズの回答

ア　蘭越町：お米の産地として知られる蘭越町は良質な温泉でも有名です。
イ　倶知安町：町のシンボル的なキャラクターじゃが太くんがスキーをしています。夏にはくっちゃんじゃが祭りが催されます。
ウ　真狩村：観光名所の羊蹄山が描かれています。
エ　喜茂別町：日本で最初にアスパラガスの本格栽培を始めた喜茂別町は、特産品のアスパラガスと羊蹄山が描かれています。
オ　京極町：ふきだし公園と羊蹄山です。羊蹄山からの湧き水が一年中湧出しています。
カ　ニセコ町：世界的なリゾート地ニセコの冬の代名詞スキーとニセコの山々です。